

デモソフトによるアンテナ切り替えの設定 (ロングレンジタイプ)

新規作成 2005年11月14日

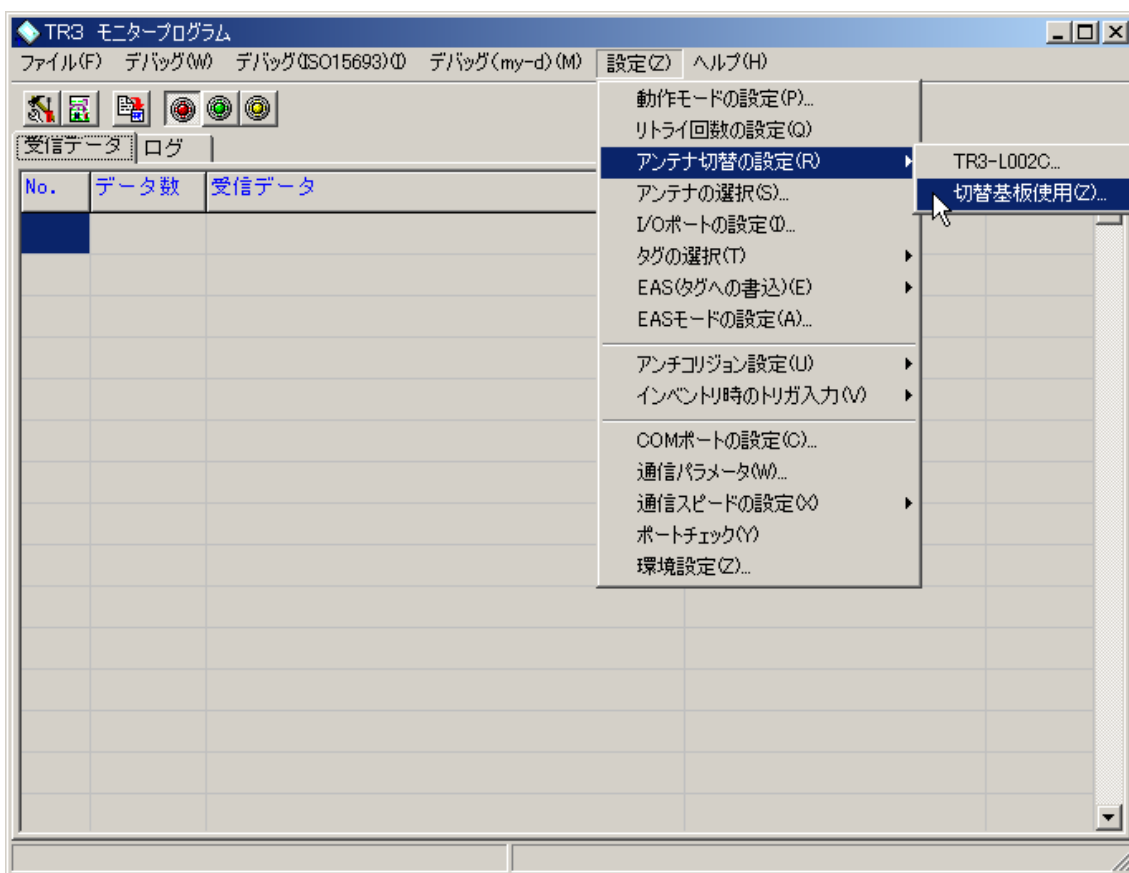
修正 2006年7月28日

Ver 1.01

タカヤ株式会社 RF事業推進部

<デモソフトによる設定について>

- [1] デモアプリケーション TR3Demo2.exe を用い、
メニューの 『設定』 --> 『アンテナ切替の設定』 --> 『切替基板使用』 で設定
ダイアログを表示し、設定を行います。
尚、ソフトのバージョンは、V1.33 以降をお使いください。
(『ヘルプ』 にてご確認いただけます)



- 4 c h 及び 8 c h 切り替えタイプ ⇒ [2]へ
- 1 6 c h 切り替えタイプ ⇒ [3]へ

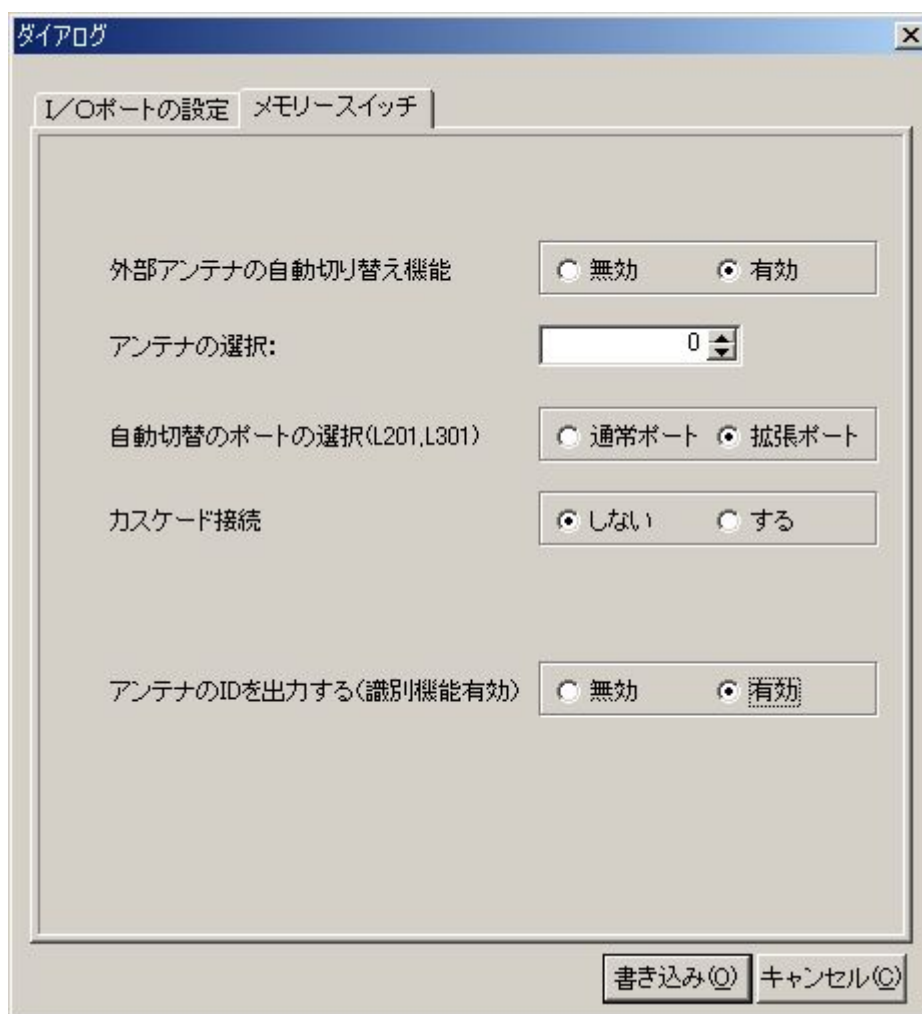
[2] 4ch及び8ch切り替えタイプについて

(1)アンテナ切り替えの設定

メモリスイッチのタブが表示され、まずは各々必要な設定を行います。

- R/W による『自動切り替え機能』をご使用される場合は、『有効』をクリックしてください。
- 『アンテナの選択』の設定には『接続するアンテナ数-1』を入力してください。
- 『ポートの選択』は『拡張ポート』に設定してください。
- 『カスケード接続』は『しない』を選択してください。
- アンテナIDの出力は必要に応じて設定してください。

有効設定により、受信データ画面内、入/出欄に読取アンテナIDが表示されます。
入/出欄の表示設定については、[4]アンテナIDについて、をご参照ください。



(2) I/Oポートのモードの設定

以下のダイアログ中で、I/Oポートの設定を行います。

- ・ I/Oポートはポート4～6を使用します。
- ・ 入出力ポートの設定は『出力ポート』に設定してください。
- ・ デフォルト値は『0』に設定してください。



(3) 設定後、書き込みボタンを押す事で、R/W 内部の EEPROM に設定値が書き込まれます。

尚、設定を有効とするには、R/W に対して電源の再投入（電源の OFF-->ON）が必要ですのでご注意ください。

[3]16ch切り替えタイプについて

(1)カスケードの設定1

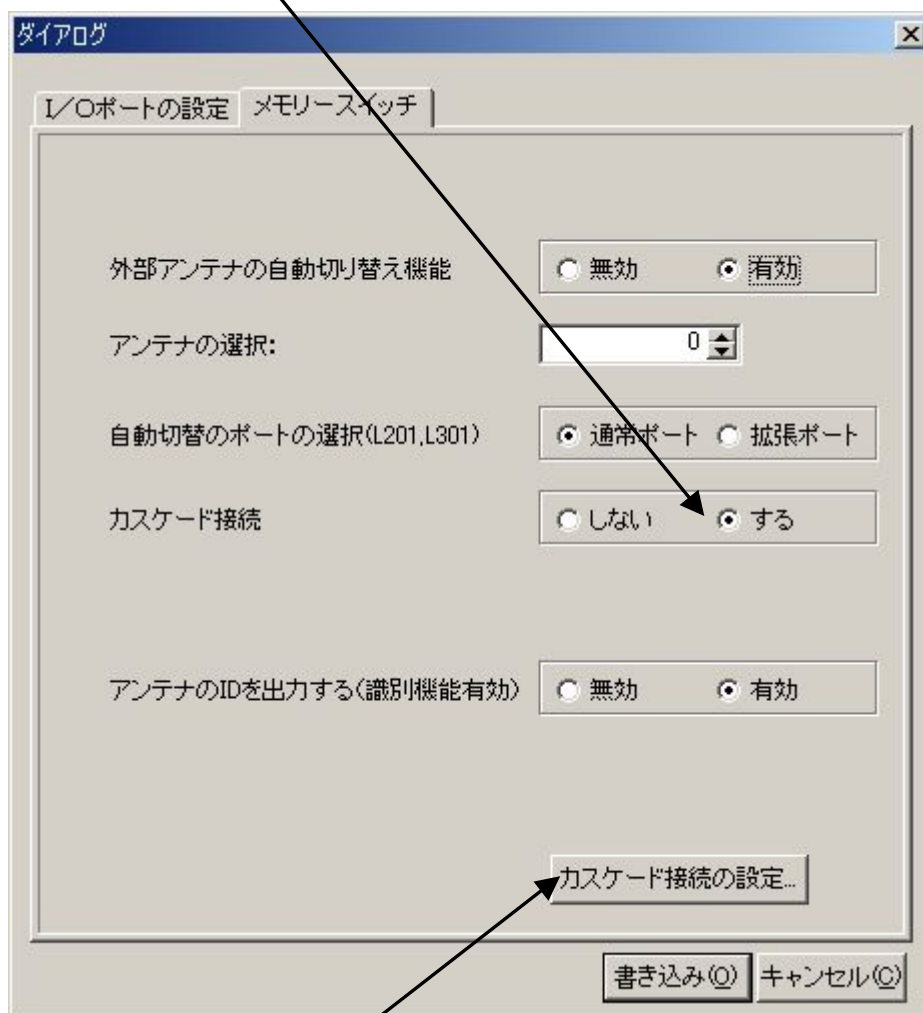
メモリスイッチのタブが表示され、まずは各々必要な設定を行います。

- R/W による『自動切り替え機能』をご使用される場合は、『有効』をクリックしてください。
- 『アンテナの選択』の設定は必要ありません。
- 『ポートの選択』は『通常ポート』に設定してください。
- アンテナIDの出力は必要に応じて設定してください。

有効設定により、受信データ画面内、入/出欄に読取アンテナIDが表示されます。

入/出欄の表示設定については、[4]アンテナIDについて、をご参照ください。

『カスケード接続する』をチェックします。



カスケード接続の設定ボタンが表示されますので、そのボタンをクリックしてください。

(2)カスケードの設定2

以下のダイアログで、接続するアンテナ数を設定します。設定後は、OKボタンを押して、R/W 内部の EEPROM に設定内容を書き込みます。

尚、接続するアンテナがない場合は、0を設定します。

また、アンテナ出力は、1から順番に使用し、途中で空きがないように設定してください。

例えば、以下の設定は、アンテナ出力1、2に、8個ずつのアンテナを接続する場合の設定となります。

尚、R/W(16ch)をご使用の場合、1段目はアンテナ1出力、アンテナ2出力のみの使用となります。

1段目	2段目
アンテナ出力	使用するアンテナ数(0-8[0:未使用時])
アンテナ1出力	8
アンテナ2出力	8
アンテナ3出力	0
アンテナ4出力	0
アンテナ5出力	0
アンテナ6出力	0
アンテナ7出力	0
アンテナ8出力	0

(3) I/Oポートのモードの設定

以下のダイアログ中で、I/Oポートの設定を行います。

- I/Oポートはポート1～6を使用します。
- I/Oポート1～3では『ポート』を選択します。
- 入出力ポートの設定は『出力ポート』に設定してください。
- デフォルト値は『0』に設定してください。

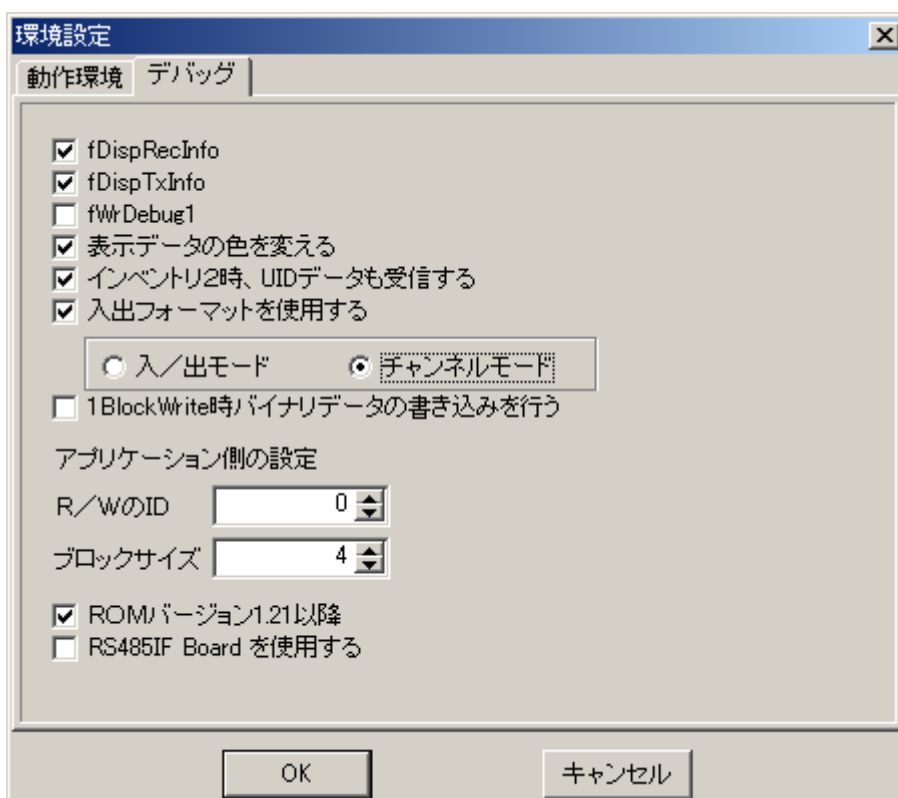


(4) 設定後、書き込みボタンを押す事で、R/W 内部の EEPROM に設定値が書き込まれます。

尚、設定を有効とするには、R/W に対して電源の再投入（電源の OFF-->ON）が必要ですのでご注意ください。

[4] アンテナ ID について

アンテナ自動切換え有効時、R/W からのレスポンスにアンテナ ID(番号)が付加されます。
この ID を受信データ画面内「入/出欄」に表示させるためには、以下の設定が必要になります。
メニューの『設定』 --> 『環境設定』 --> 『デバッグ』において、
『入出フォーマットを使用する』をチェック--> 『チャンネルモード』をクリックする。
『OK』により、設定完了になります。



タカヤ株式会社 RF 事業推進部
[URL]<http://www.takaya.co.jp/>
[E-mail]rfid@takaya.co.jp

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。